

「保健医療科学」
第67巻 第1号 予告

特集：Lessons Learned on Public Health from Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident (仮題)

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故の概要と公衆衛生課題の概説 (仮題) 櫻田尚樹, 他	
2011原子力災害後における福島住民の外部及び内部被ばく線量評価 (仮題)	栗原治
食品の規制値と実態, 線量評価 (仮題)	寺田宙, 他
県民健康調査 (生活習慣病を中心に) (仮題)	大平哲也
県民健康調査のうちの甲状腺検査先行調査の結果の解釈について (仮題)	高橋秀人
福島原発災害による心理社会的影響と現在の課題：自然災害と原子力災害の相違 (仮題)	前田正治
福島県県民健康調査「妊産婦に関する調査」の概説	
—放射線被ばくへの不安を抱える母親に焦点をあてて— (仮題)	後藤あや, 伊藤慎也
原発事故に伴う二次的な健康課題—相馬・南相馬地区での経験から— (仮題)	坪倉正治
福島第一原子力発電所事故に係る緊急作業及び除染作業における放射線防護に関する教訓 (仮題)	
.....	安井省侍郎
放射線コミュニケーションの課題 (仮題)	山口一郎, 他
科学コミュニケーションを巡る歴史と教訓—東日本大震災への示唆 (仮題)	標葉隆馬
放射線生物学から学ぶ低線量放射線による人の健康影響について (仮題)	志村勉, 他
Disaster Epidemiology: Assessing the health impact of environmental public health disasters (仮題)	
.....	Erik R SVENDSEN

編 集 後 記

循環器疾患、糖尿病、がん等のいわゆる生活習慣病は、生活習慣の改善によって発症や進行が予防できるという認識が国民の間で醸成されることを目指して、1996年に公衆衛生審議会が「食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群」と定義し、その概念が広まって今日に至る。これらの生活習慣の中でも特に食習慣は乳幼児期から生涯にわたって形成されていくものであり、生活習慣病予防という観点からも成人期以降だけの問題ではなく全てのライフステージを通じた取り組みが重要である。私自身は生活習慣病対策を専門としているため食習慣と生活習慣病との関連に特に関心が強いが、一方で「栄養・食生活は、生命を維持し、子どもたちが健やかに成長し、また人々が健康で幸福な生活を送るために欠くことのできない営みであり、多くの生活習慣病の予防のほか、生活の質の向上及び社会機能の維持・向上の観点から重要である。」(健康日本21 (第二次)の推進に関する参考資料より)とされるように非常に多面的な特徴がある。

本号の特集では栄養・食生活に焦点を当て、「我が国におけるライフコースを見据えた栄養の課題と解決にむけた方向性」を様々な視点から概説した。全ての人びとにとって最も身近な生活習慣の一つである食習慣が各ライフステージにおいて健康に与える影響を考え、改善策を検討していくために活用していただければ幸いである。

(生涯健康研究部 横山徹爾)